

3. 景観づくりの課題

人々の暮らしの変化や急激な都市化が進む一方で、長い年月をかけて形成されてきた地域固有の自然・風土に根ざした特徴ある景観が喪失し、潤いや個性に乏しい市街地の景観が形成されている場面も見られます。

先人が育て、培ってきた岡山固有の「原風景」を市民共有の財産として守り、育て、創りあげていくことが必要であり、次のような点が景観づくりの目標である「おかやまの原風景を活かした景観の創生」に向けた課題となります。

特徴ある都市のイメージづくり

多様な景観資源を持った岡山市では、岡山城・後樂園のみならず、市街地を囲む山々、旭川などの河川空間、都心の大通りなど岡山を代表する特徴ある景観を整え、誰もが思い浮かべる都市のイメージを創りあげていく必要があります。

地区ごとの個性ある景観づくり

それぞれの地区に存在している景観資源を再発見、評価し、個性や魅力として組み立て、周辺地域と一体となって、地域固有の景観として磨き上げていく必要があります。

市民協働による景観づくり

良好な景観づくりは、担い手である市民、事業者が価値観を共有し、日々の生活の中で取り組んでいく必要があります。そのためには、景観づくりの必要性や方向性について幅広いコンセンサスを形成するとともに、景観づくりの取り組みを促進し、支援していく必要があります。



大勢の市民ボランティアによる清掃活動
(旭川河川敷)



地元ボランティアによる水路の清掃(庭瀬地区)